

1 主題設定の理由

一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現を目指す GIGA スクール構想が 2021 年度から中学校でも全面実施となり、3 年が経過した。

また、「Society5.0」を見据えた「STEAM 教育」も提唱され、教育の変革は加速度的に進められている。本市においても「未来の教室」をテーマに、中・長期的なビジョンで GIGA スクール構想の実現を目指している。

そこで、本班では、GIGA スクール構想の実現に向けて行われている各学校の取組をまとめ教頭としてどう関わっていけばよいかを明らかにするために本主題を設定した。

2 研究のねらい

GIGA スクール構想の実現に向けた各学校の取組とその取組に対する教頭の役割について考察し、教育活動の充実に資する。

3 研究の概要と成果

(1) 櫛中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科でロイロノートやキュビナを活用して授業改善を図った。

イ 作品やワークシートをタブレットで提出させて集約したり、生徒の活動を動画で撮影したりして評価に生かした。

② 授業以外での活用

ア 講話や生徒総会の資料配付やアンケートの回答でタブレットを活用した。

イ 職員会議での資料配付や情報共有、連絡をロイロノートで行った。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーが中心となり ICT 支援員の協力を得ながら、全体研修やグループ別研修など多様な形態での研修を実施した。

(2) 宮崎中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科において、課題の指示や配付、提出等は、ロイロノートを活用して行った。

イ ロイロノートを用いて、生徒自身の考えを引き出したり、他の生徒の考えを共有化したりして、協働学習推進の一助とした。

ウ キュビナやロイロノートのテストを活用し、単元内容の理解力を高めた。

② 授業以外での活用

ア Zoom を用いて、集会や生徒会発表等を実施した。また、生徒総会に向けた学活でもロイロノートを活用して行った。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員が中心となり、デジタルスキルの向上を目指して、全体研修や個別研修など、多様な形態での研修を実施した。

(3) 宮崎東中学校の取組

① 授業での活用

ア 次時の準備物の連絡や各教科で課題の指示や配付、提出等を、ロイロノートを活用して行った。

イ キュビナを活用し、生徒の進度に合わせた課題に取り組ませた。

ウ コロナ禍において登校できない生徒に対して授業配信を行った。

② 授業以外での活用

ア 全校集会や生徒総会、中体連の壮行会、PTA 総会等において Zoom を活用して実施した。

イ 学級担任が、不登校傾向の生徒（同意が得られた場合）に対して、Zoom を活用して定期的に面談を行った。

③ 研修体制の整備

ア 研究主任、技術科担当の職員や情報教育推進リーダーがタブレット活用の効果的な活用について紹介し、全体研修やグループ別研修など多様な形態で実施した。

イ 小学校との共同で進めている職員研修にタブレット端末の活用を内容に入れ小学校と連携して積極的なタブレット端末活用に取り組んだ。

(4) 宮崎西中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科で課題の指示や配付、提出等の返信にロイロノートを活用した。

イ 英語科では、課題として生徒が録音または録画したデータを提出させた。

② 授業以外での活用

ア 集会や生徒会発表等を、Zoom を活用して実施した。

イ 週末課題の一つとして、キュビナに取り組ませた。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員で、全体研修を実施した。

(5) 東大宮中学校の取組

① 授業での活用

各教科でロイロノートを日常的に活用した。

ア 課題の指示や配付、提出として活用した。

イ グループ活動での意見の共有・まとめ・発表の中で活用した。

ウ 不登校生徒へのオンライン授業として配信した。

② 授業以外での活用

ア キュビナを長期休業中の課題として活用し、個々の習熟度に応じて取り組ませた。

イ 気温に応じて集会や行事等で Zoom を活用した。

③ 研修体制の整備

ア ICT 支援員による研修(百問繚乱の使い方)を行い、活用の動機付けとした。

イ 情報教育推進リーダーによる夏季休業中研修(Google の便利な使い方)を行い授業での活用の動機付けとした。

(6) ひなた中学校の取組

① 授業での活用

ア 個別最適な学びの1つとしてキュビナを活用し、生徒それぞれの習熟度に応じた問題を提供した。

イ ロイロノート課題やワークシートの提示・提供に活用した他、メモ代わり及び支援の記録に活用し、生徒の特性に応じた個別支援を行った。

② 授業以外での活用

ア 夏休みの課題として、キュビナによる問題の提供や映像視聴を課したり、課題をロイロノートで提出させたりしてタブレットの活用を図った。

③ 研修体制の整備

ア 宮崎市教育情報センターの職員を講師として、クロームブックの活用に関する研修を実施した。

イ 情報教育推進リーダーや学力向上推進リーダーを中心に、タブレット等の活用に関する共通理解や、授業実践を通したスキルの向上を図った。

(7) 宮大附属中学校の取組

① 授業での活用

ア 技術科、理科、数学科では生成AIを活用した授業を行った。

イ 理科ではロイロノートをワークシートとして利用しており、シンキングツールを使い探究の流れになるように工夫した。また、評価をつけて返却した。

ウ 全ての教科もロイロノートを教科独自で活用した。

② 授業以外での活用

ア NIE、生徒会活動、合唱コンクールの練習、昼休みの活動等において、生徒がロイロノートを使って対話やアンケート、結果分析等に活用した。

イ 欠席の生徒に、ワークシートや授業の板書等を、ロイロノートで送付した。また、不登校生において文科省の推奨プログラムを活用した家庭学習や Teams を活用した遠隔授業を行った。キュビナの活用も併用した。

ウ 教育実習においても、実習生がロイロノートを使えるようにアカウントを取得し、実習授業で活用した。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育担当が研修を行ったり、必要なスキルや、活用できるアプリなどをロイロノートや C4th で情報共有したりした。

4 教頭としての役割

各学校で ICT を活用した授業実践や授業以外での活用に取り組んでいる中、教頭が担う共通の役割として、主に次の3点が挙げられた。

○ 教育の情報化の目的的理解と周知

教育の情報化の目的には、学習基盤となる「情報活用能力」の育成があり、その資質・能力を育成するために、ICT を適切に活用した学習の充実が求められている。そのことを踏まえた上で実践に取り組むことが肝要である。

○ ICT 活用の教育課程等への位置付け

各教科等における ICT の活用について教育課程や年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に授業改善に取り組んでいくことが大切である。

○ 情報セキュリティの遵守とデジタルシティズンシップ教育の充実

教職員の ICT 活用に関して、適切な運用を図るために、情報セキュリティポリシーの遵守についてマネジメントするとともに、生徒自らが責任をもって適切に ICT を活用できるよう、デジタルシティズンシップ教育の充実を図る必要がある。

5 今後の課題

全国学力・学習状況調査の調査結果に示されているように、ICT の活用は学力向上に一定の効果が認められており、教育の現場では、なお一層の活用が必要である。

しかし、ICT の活用に関して、教職員間の個人差は大きく、また、教育の情報化とともに、教育に活用できるアプリケーション等を含むソフトウェアやウェブサービスは多種多様となっている。

こうした状況の中、各学校においてさらに教育の情報化を推進し、GIGA スクール構想を実現するためには、研究主任や教育の情報化推進リーダーを中心としながら、校内外の人材を活用していく必要がある。

今後、教頭の役割として、教職員が自立して ICT を効果的に活用し、教育活動の充実を図っていけるようなサポート体制をいかに構築していくかについて研究を深めていきたい。